



NIPPON BEARING

4月21日付 日本経済新聞広告 解答と解説

【問題】 新型コロナの検査でも活用されているCTスキャナ、何を利用している？

- ① 磁場 ② エックス線 ③ 超音波

【答え】 ② エックス線

【解説】

CTスキャナでは、『エックス線（X線）』を利用して、画像を撮影しています。

健康診断などで行われるレントゲン撮影で使用されているのも、エックス線です。

ちなみに、レントゲンという名前は、エックス線を発見したヴィルヘルム・コンラート・レントゲンというドイツの物理学者の名前が由来です。

CTとは、コンピュータ断層撮影（computed tomography）のことで、体の断層、つまり断面の画像を撮影して、内部を調べる検査方法です。

CTと同じように、断層を撮影する検査方法に、MRI（magnetic resonance imaging）があります。

MRIは、核磁気共鳴画像法のことで、『磁場』と『電波』を利用して画像を撮影しています。

エコー検査で利用されているのは、『超音波』です。これは、人間の耳には聞こえない領域の音波を利用した検査方法です。超音波が臓器にあたると反射する性質を利用して、画像を作り出しています。

これらの検査方法には、得意分野やメリット・デメリットがあるため、どの検査方法を使用するかは総合的に判断されています。新型コロナウイルスの感染では、肺炎の症状がみられることが多く、その検査にCTスキャナが利用されることがあるそうです。

これからも、私たち人間には『見えない・聞こえない』さまざまなものによって、より多くのことが明らかになっていくのかも知れません。